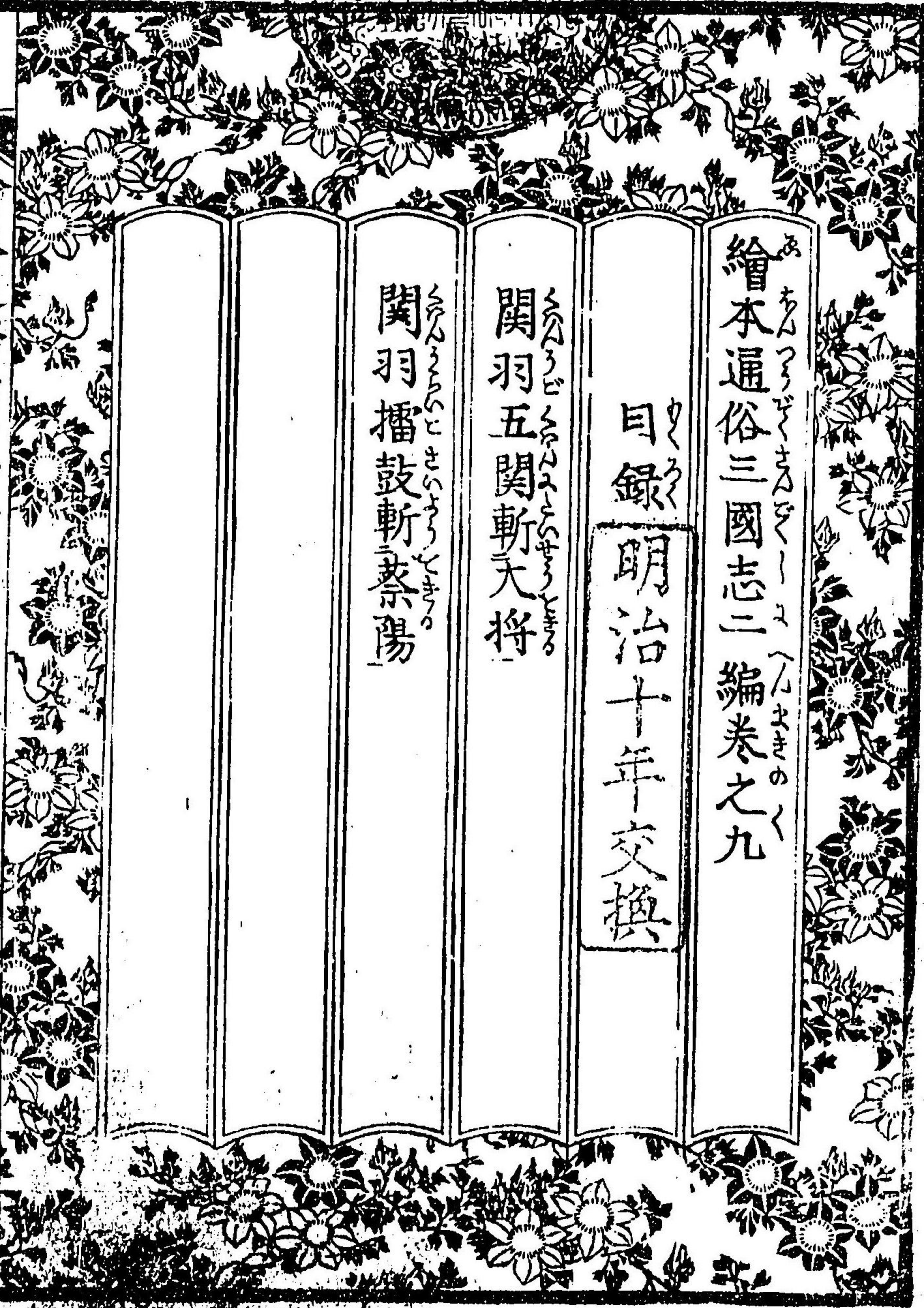


繪本通俗三國志
編九

122
74
53

東 京 圖 書 館

七 五 冊	20 七 八 號	架	三 六 函	水 說 類	和 書 門
-------------	-------------------	---	-------------	-------------	-------------

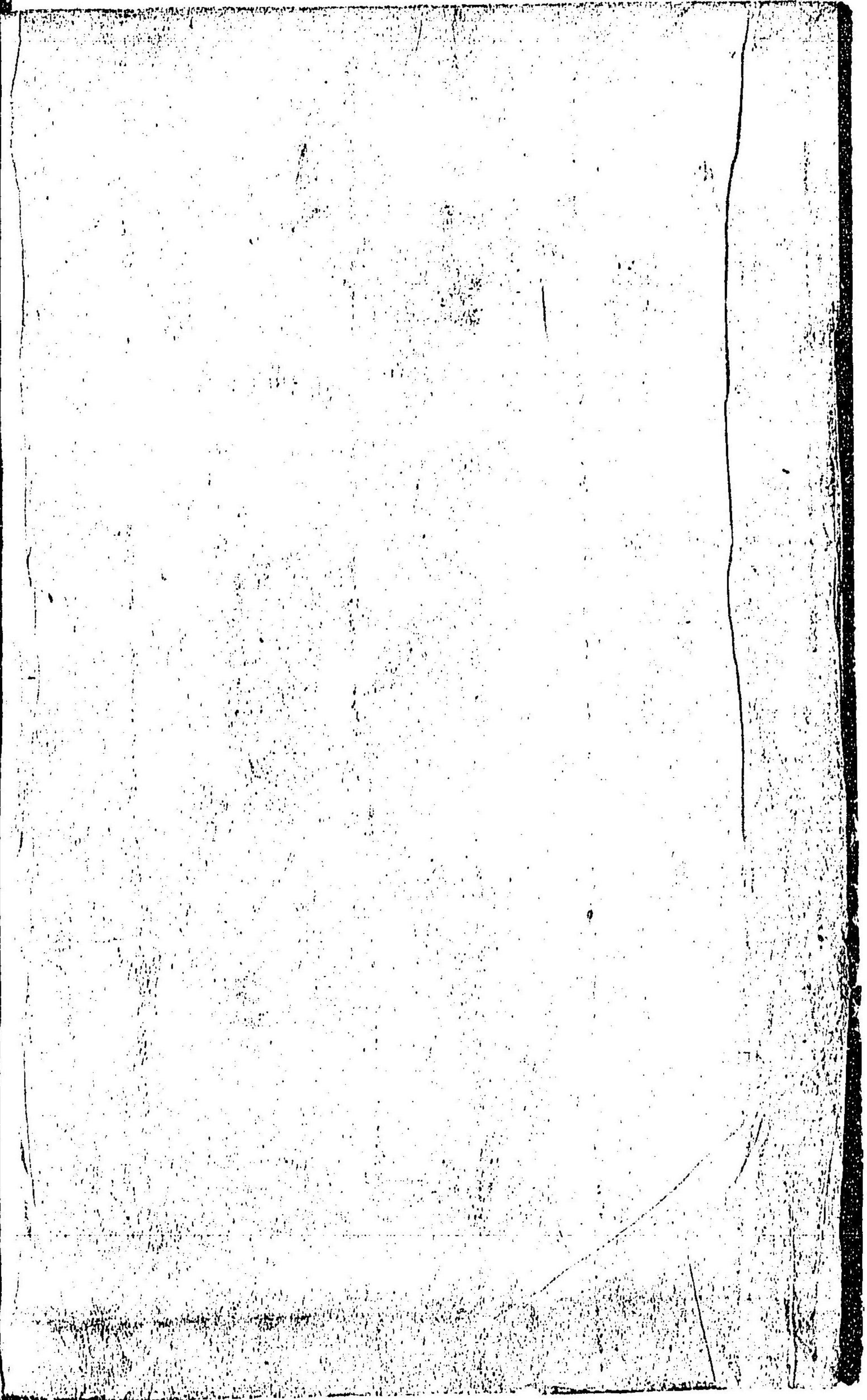


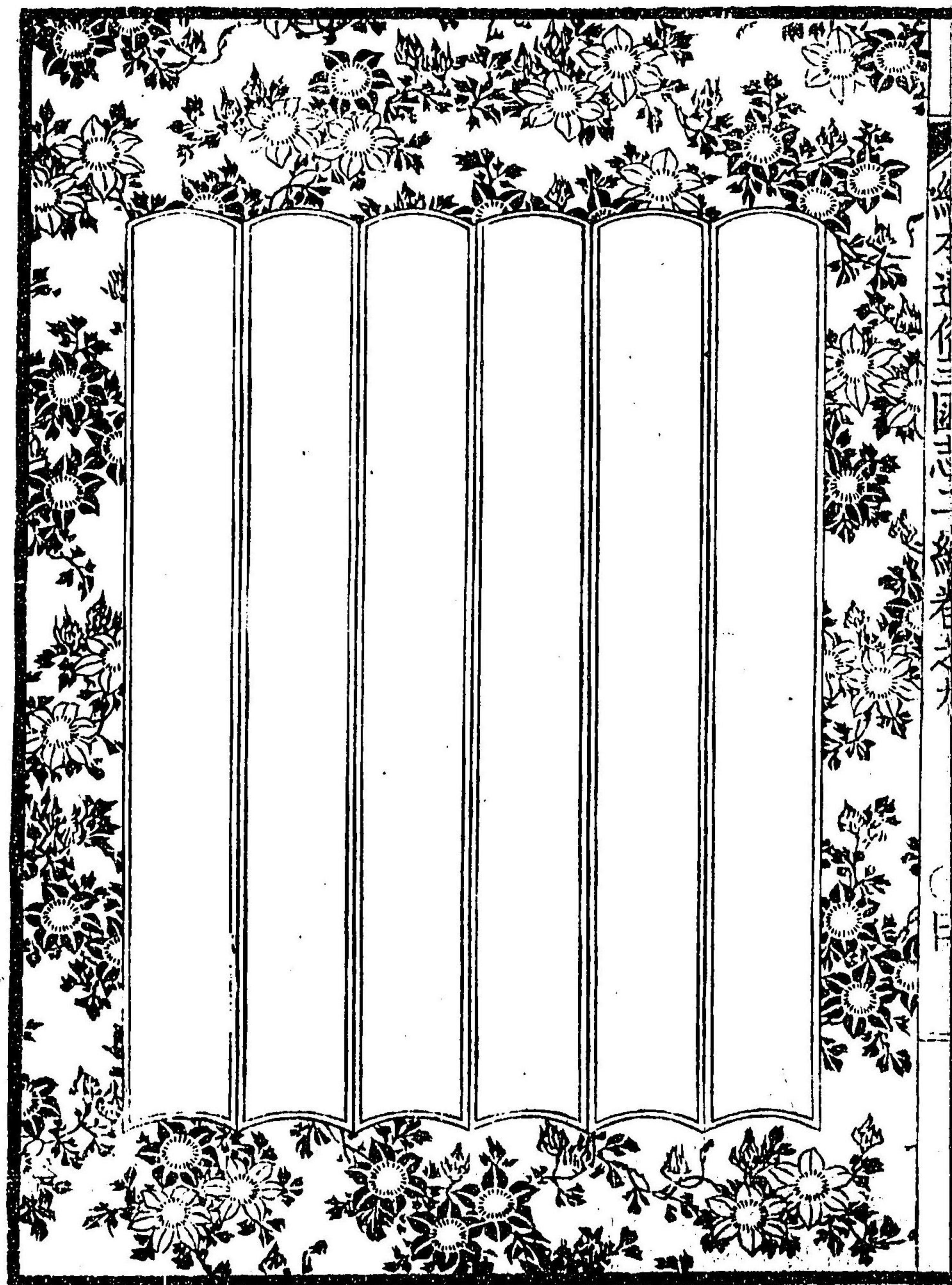
繪本通俗三國志二編卷之九

目錄明治十年交換

関羽五関斬天将

関羽播鼓斬蔡陽





繪本通俗三國志三編卷之六

関羽五関斬大将

去程ふ関羽の胡華が家を出浴陽とさそとさむる路

川の関あり東嶺関と名くまこと守る所の曹操手下

の孔秀といふもの五百余騎よく固ちたりまの元來三

刀第一の要害ありま車とかりて駐り関羽た三騎上りま

する孔秀まきとんとくさきとひのさげさ出向ひあま

馬よりあつぬごとと叱るまが関羽飛下りと禮とまの孔秀問

て曰く將軍の何方へと通むと問羽答て曰るま曹丞相

も別とま河北へ行と玄德と尋ぬ孔秀が曰く河北は

曹丞相の敵あり御遠へ行んとあまは曹丞相

乃告文と取来りゆめあまの関羽白く事火急に出で告文を志
きおまをり孔秀が白く関所を割符あまの御辺言はる是
處に逗留しぬ入るべき都へ入と上せ丞相の命を受てその
通とて関羽が白く使の往還を待たしむる日を送る孔秀
が白く一日丞相の命あまを一日住せし一年あまを一年住せし関
羽のゆとやたるの你いふれをさるを侮る孔秀が白く國の法度
あまをばらふに任せせし今も世龍虎相争とてあまを輕しく通
あま後日の責とよきいふと免まへ関羽が白く使をいふと
通とてんが只今大なる災あま願ふまらるる通とて孔秀が
や強と通とてんが只今大なる災あま願ふまらるる通とて孔秀が
とく只一人通へ関羽大に怒り力をまきと斬と蒐まへ孔秀

まらるる内へ入関門を閉と鼓とあま兵と集て又門をひらけ
ふらら鎗と拵と馬とまらら使あま通とて言ひなせし関羽
侍兼たるとあまをさるまらるるあまを真地暗に討と蒐り西馬あま
まらら二合と一と孔秀と腰より二のまららとす
諸卒あまをんと震ひ怖とせんく走りたる関羽大音と
らら使あま逃るとまらら孔秀と殺せぬとて得
るのへまらる你ホ罪あまとあまを害とてあまを
丞相の暇と請都とはあまを来ぬ孔秀の言と疑ぐへ
みだりのまららと殺んとす我已とて得とて誅とて願ふまの田と
丞相の傳よといふと関と越と通るとまらら諸卒とま地と様
伏すと洛陽の太守韓福へ関羽が東嶺関と越と孔秀と斬と

る由とき。いそぐ勢を將てあつてやどりつる。関羽を都を
逃出く是非なく東嶺関を越たり。まのまゝ來る。まのまゝ
かゝる大將孟坦。白く丞相の告文もあくと私に出來せよ
と輕く通へば後日の責逃さぐのらん。韓福が曰く関
羽の勇猛よく敵さるるは。顏良文醜が萬夫不當と
突へし。卒に叶へぬ。計をちぢら。あざ
むくと生取し孟坦を曰くまの要害の逆茂木を引。彼來
ると待受某の計に出と戦ひ太守の山上に陣を取
兩の陣やく矢とそらひて左左右右に伏置。忽ち生取都
へ送り上せ。恩賞あつて韓福の多きと。余
騎の勢を集め突つて固く待る。関羽車を守護しと出來

る。韓福手をもち馬と門前より立來り。ものまの者
ぞ。名字やんといふるを。関羽馬上の禮とよと云ふ。
この等亭侯関羽の門をひらけ通へ。韓福が曰曹丞
相の告文あり。関羽の目告をく。取來らば韓福が曰まの
は古の都也。関野は平地なはたせ。第一の要害あり
と云。まのまのを。やんといふる。まのまの。昼夜あまのまの
非常と正し。告文あつてを御辺にあつた。私に出來せよ
らん。関羽の曰くやんの東嶺関は孔秀のまのと住んで
と却と斬せたり。女も亦首と失惜あり。韓福はいつに
ら出せ。あまを擒せんとせ。りくを。孟坦。刃刀とさげ
と兼戦ひの多が三合あつて馬にとがりと走りつと。関羽



関羽



孔秀

東嶺関
関羽孔秀

急を追ひたぐ一刃を斬り落さし孟坦を獲り計あり詐て所
を関羽を伏し處にひきよせ四方より取らむと生取と思
し安業は相違しと関羽が騎たる赤兎馬の千里乃駿足
あるがたちあるち追付きたり太守韓福の門のわづら馬と
立居るが孟坦が討たれんとてきつと馬とせしむと
の兵とをまのその矢関羽が左の臂にありつるをみり棄
て大勢の中へ斬り入韓福と門の前まで追ひ青竜刀と
とのべ首より肩とほり斬り落さし敵軍膽をひやと
さんぐも走りまは関羽の濤口よりあがる血と帛と列をよく
束ひ人の志をえんと恐るる初ゆ路をいそがし水関を
来りたるはの関所をいそがし黄巾の賊とて後曹操を降

し并たの下喜といふもの大勢よく固たり関羽が韓福とある
と来よとてきつと計をのけと討つとてその辺は深
乃明帝の建立の鎮国寺といふ寺ありを廻廊の陰に
屈強の兵二百余人と伏置と後孟坦と撃と叫とれ討と出
よと約とまはし関門をひいと出むとていそがし関羽其懸
懸あると喜び馬よりとりと禮とあると下喜するの將軍の
威名天下雜るありとて今故主の許に白ありとて
義と全とあるありとて深く教の関羽を誠ありとて
と孔秀韓福と殺したるよとて下喜するの將軍の
は不義乃輩と誅しめ曹操あんど怒とありとて某とて
くまの事とていそがし休息しめとて鎮

寺は精進多き関羽の中に入らば喜ぶ寺中乃僧侶三十余
 鐘とあふしと出ぬ入る中の普淨長老と関羽同郷
 人あり下喜が出家を殺さんとする計をまづるをばんと関
 羽は問訊して曰く將軍蒲東といひ幾年ぞ関羽は白二
 十年のちの長老の曰く將軍のまことまのあふ関羽は白知
 ち長老の曰くは將軍と同郷の生まれを將軍の家とて
 けは河のほとりを隔たり羊年をまづるをばんと下喜
 ままにまゝして立腹し長老故郷の好あふ事あるは洩し
 とあふひるまづるを関將軍と請ふ酒をさくせんとするは沙
 門の身としとあふとくみづりふ舌と揺さざと叱りたるは関
 羽はさうさのまゝ奴がひて同郷の人もあふまづるは昔熟りたる家

ありと相伴て方丈へ入るを長老の茶をさく関羽は
 二夫人車の上より願くまのまの長老をさく夫人は茶を
 すめ手を戒力ととり関羽はまこと目如くをば関羽との意を悟
 り後者と呼ぶ青竜刀と側ら置しとて下喜講堂を精進
 の酒宴をさくまのまの長老をさく関羽は付て四方を伺ふ壁陰
 に入衆を伏たつと下喜のまづる下喜將軍のまづる酒宴を招き
 へ好とし入る却る心は巧あふるとのまづる下喜は
 つまんと將軍と持成人為あり関羽はあふあやを起す物法
 とするを斧を持雄刀をひのさげ弓を矢を抜きまづるのまづる
 うりしは初疑ふをまづるまづると出殺す討たれあふとあふ
 聲を聞きし你と善人うとあふを却るまづると善人うとあふ

と討りてきて十喜事乃ありきなりとて兵を足出よと呼らるる
 騰たて少年十人をり踊り出らるる。関羽青竜刀を振りて
 斬殺す。十喜さきと怖きと堂へ下りて走りて。関羽さ
 り追蒐るる。十喜元來力強きものを引返して鉄槍を
 投げた。関羽身と避る。青竜刀の背より打ひらぬ。か
 刀は十喜が肩より腰よりけり。真二の斬倒を敵勢震怖
 せり。十方へ落失なきが長老とまほひて禮とほ。長老
 乃扶よあざむを。あざむの害ありとていふ。懇懇別
 とほ。車と守護しと出らるる。普淨長老を衣鉢と收拾
 して。まはるる處に住るといふ。他國へ行て雲遊せる將軍
 よく身と保ちて。後日又對面せんとて寺と出て去らるる。

陽乃太守王植と討せり。洛陽乃太守韓福と類ある。は
 勢とあつて相待り。関羽をよ。沂水関とあへて太守
 十喜と殺し。た。今まる處へ来るといふ。を。門をひ
 いて出む。あ。何へ通りあ。と問ふ。関羽答へ。吾
 兄と尋すと。河北へ行。王植が曰く。將軍へ天下乃義士あり。遠路
 不馳。疲まむ。二夫人を伴て。城中へ入。一夜人馬を体め
 夜あけ。打立ぬ。と誠げ。い。関羽との懇懇あ。と
 さま。疑ふ。城中へ入。客屋を。王植酒。真と
 めんと。招き。と。関羽が。辞。夫人。在。と
 も。離。と。い。飲食。客屋。送り。来。関
 秣。甲。解。士卒。と。休息。せ。と。王植。は。喜。

事胡班とてりし。關羽都を逃出。路よ。太守とま。その罪なきなりと大あり。彼武勇。容易のあり。汝千余騎を率。客屋と圍。投火炬。用意。亮。積。四方より火を掛。外門を焼。崩せ。二更。比。合圖。兵を出。下。知。胡班命を受。兵を細。乾。燄硝。用。意。集。用意とづく。備り。た。時刻を待。關羽名を交。客屋。行。關將軍。何。居。問。從。卒。廳上。書。入。胡班。の。何。關羽。左。平。髪。握。几。燈。下。書。

と見居。氣色。尋常。人。驚。感。嘆。と。真。天。上。乃。人。あり。と。高。聲。言。關羽。付。あ。と。問。胡班。内。入。某。太守。位。從事官。胡班。と。答。關羽。驚。許。都。城外。胡華。と。子。胡班。曰。ある。某。父。と。知。關羽。の。家。宿。と。假。方。と。熟。從。者。と。胡華。言。傳。書。問。た。胡班。ひ。と。嘆。父。乃。書。と。見。父。乃。書。と。天。下。忠。義。乃。人。と。殺。人。と。天。の。人。と。扶。不。知。あ。の。王。植。計。の。將。軍。と。早。城。を。出。落。せ。

二更乃比と合圖の四方より火を掛んと其以て關門を以て
 送り出さむと云ふといひて關羽大に驚きたるものも取あへず
 二夫人と車に乗門外まで出たるも果して火炬を持たざる
 どもひりくと来りあはまる胡班ひそる北の關門をひかひと
 送り出し客屋を回り四方より火をうけしむる伏兵賊をば
 くりと討て出さむと云ふ人一人山ほ初計を
 推しと逃たるふあふんきう追蒐よとと飛ぶとく追蒐る
 關羽の胡班を扶けられ二里をうり出さる火炬ととんはきて
 かたりのあまを人馬追来り關羽を逃さむと聲を言り王植真
 先は馬をまき關羽の馬をととせ汝りとすうとと仇はふ
 よゆは焼殺せんといまてとていひるまへ王植きまあへ丘と下

知しとていひて鎗をひ振りて突て蒐る關羽馬をまへ人青
 龍刀を振あげた合は王植を斬り落し勢を以て乗て蒐
 たりとて敵軍膽をいやと八方に散乱せりまきより車と
 とやめとまてて滑及の堺まで来りしむる太守劉延まき
 とまき付叔十騎と引て城外に出むる關羽馬上に禮をま
 太守別來恙あえりといひるま劉延は將軍今何
 行あへて關羽曰る曹丞相の暇を請玄徳の行末と
 尋ねんと劉延曰く玄徳は河北に居り河北の曹丞相
 乃大敵をまて丞相いそる將軍と許さるべし關羽曰る
 是れも浩事とあへて丞相と約と固くと玄徳乃在將
 とだまき水火をむるとも尋ね去るといひ置り劉延曰



下喜勢と伏せて
関羽と鉄鞭と投す

今黄河の渡口より夏侯惇が手下の秦琪といふ者の大勢を
 要害と守はる。夏侯惇は將軍と通す。関羽が曰く太守は
 渡る舟を借る。劉延が曰く舟はあらず。今日し
 將軍は借を後日罪にせしむ。遂に得ん。関羽が曰く
 太守は顔良文醜を討つ。太守は為す。あらず。たて救り
 今日し一艘の舟を借る。劉延が曰く舟を借るとい
 る。夏侯惇も「きつばあはれ」と罪をへ。関
 羽は言ひて。劉延は無用の人ありとあはれ。きつばあは
 車を推せ。秦琪が陣へあはれ。秦琪は名をきつばあは
 兵を率へて出迎きたる。人のあはれ。夏侯惇の
 名は関羽が答へ。夏侯惇は名をきつばあは

曰く何へ行ふぞ。関羽が曰く河北へ行て女徳を尋ね
 んとき願く。渡る舟を借る。秦琪が曰く曹丞相の告口文
 あり。関羽が曰く曹丞相とあはれ。あはれ。漢朝の臣ま
 り。夏侯惇を彼が下知と受ん。秦琪が曰く夏侯惇の命
 と受ると。渡る舟を守る。汝が飛て行志。曹丞相
 と問ふ。そのちの通す。関羽が曰く汝が道をや路
 首と失つ。秦琪が曰く秦琪は名をきつばあはれ。下將と斬
 たりとも。夏侯惇は名をきつばあはれ。関羽が曰く
 文醜は夏侯惇とあはれ。秦琪は名をきつばあはれ。手
 入とあはれ。夏侯惇は名をきつばあはれ。関羽が曰く

青竜力とあぶるかとすねむ。秦琪が首の地は落たり。関羽
大音あびく。まきむもふまのつぐく是乃也。早く舟と
出さくまきと渡せといひかまき敗軍あへて逃ちかひまきより
舟と出さく。関羽北乃岸のあがり。まきより袁紹の領地
あきびよく車とえおち北と望んで進発せ

関羽播鼓斬蔡陽

関羽都と出さく。五ヶ所乃関を越六人乃大将と斬さる
。まきで黄河乃北は渡りまきむ乃中まきより安くまき
路まき大将と討たり。まきと得ざるあありといふ。曹
操まきときむ。あびくまきと因心まきぬまきありと思ふ。ま
まき止む。車はまきまきむ。忽ち騎馬乃客鞭を打て

来り。雲長まきまき。苗をと呼。関羽馬といへるまきまきま
ち孫乾まきむ。近くまき問て曰く。汝南は別まきより。一向消息
ときむ。いんまき仕ぬ。孫乾まきむ。汝南乃劉辟龔都某
まき河北は使せ。まき袁紹と好まきまきと。玄徳と汝南へ請。共
まきとあせ。曹操と伐人と計。まき相違。まき袁紹の手下
乃大将たかひ。媽とあまき。田豊の獄は囚を沮授へ退せけらる。
審配郭図志し。と得。權とのまきまきまき。袁紹のまき
り。疑乃んとまき人まき。萬事決まきまきまき。まきまき
將軍も軽く。行む。いんまき。まき起る。まきまきまきまき
某ひまき。劉皇叔と身と脱る。乃計策と定め。三日に
まき皇叔と汝南へ来る。將軍まきまきまき。輕

袁紹が處へ行む。馭の中は落く。害せらる。見ん上
と恥心を扱と曰はほい。さるまゝ来り。早く汝南は来
て對面し。人といひ。さる。関羽をさる。喜び。二夫人は右の
あゆむ。きと。結る。二夫人。孫乾とめし。と。玄徳の事と問。きけ
を。孫乾は。ぬび。う。塗。及。没。落。乃。後。艱。難。と。志。の。だ。袁。紹。の
西。度。ま。ど。斬。んと。せし。と。結る。ま。涙。と。ぞ。あ。が。し。る。関。羽
さ。さ。より。路。と。わ。く。汝。南。と。望。ん。ど。ま。む。不。る。後。より。馬。烟。と
あ。げ。と。来。る。と。の。あ。り。さ。る。孫。乾。の。車。と。守。ら。せ。し。の。う。り。馬。と
入。し。と。これ。を。復。侯。惇。の。執。か。る。元。来。復。侯。惇。の。曹。操。の。車。と
受。ま。紹。の。厭。さ。る。為。官。渡。の。陣。と。取。り。居。たり。乃。が。関。羽。の
そ。う。の。都。と。逃。さ。路。と。守。り。乃。大。將。と。斬。め。ぬ。ぬ。さ。る。手

下乃秦琪と黄河乃渡より殺せりと告る。中へ
怒り。三百余騎より追。竟。来。る。乃。曰。は。る。ち。う。く。あ。り。さ。る
関羽。馬。を。住。や。大。音。あ。げ。と。問。と。曰。は。る。と。追。い。つ。ま。る。人。を
あ。ゆ。ぬ。と。曹。の。丞。相。の。本。意。は。昔。と。な。る。を。復。侯。惇。の。乃。は。汝。南
相。の。告。文。と。い。は。る。私。は。出。来。り。と。途。と。又。は。大。將。と。ま。る
せ。り。と。ま。る。人。を。生。取。と。さ。る。早。く。の。縛。と。受。よ。関。羽。の。乃
は。昔。日。の。ぬ。と。漢。は。降。と。さ。る。と。あ。れ。と。人。と。誅。戮。さ。る。と。乃
ま。る。行。ま。る。と。約。せ。り。の。入。の。途。と。さ。る。と。渡。ら。ん。と。せ。し。と。の
一。と。殺。し。来。ま。り。你。は。ま。あ。る。と。亦。首。を。失。へ。乃。為。ら。る。と。乃
去。ら。る。と。命。と。さ。る。乃。復。侯。惇。の。乃。の。乃。を。秦。琪。の。乃
と。報。せ。んと。と。鎗。と。拵。り。と。突。と。蒐。る。乃。早。馬。一。騎。馳。きた。り

會入... 三... 一...

関將軍と戦ふとありきと呼り。夏侯惇あふりてと問
 ば馬の上より告文と取出し。曹丞相も関將軍
 の忠義とありき。関所よりさそぐの住とある。そのあ
 り無事よひつと通させよと。告文を出し入り。夏侯惇
 乃の関羽路さくとも大將と殺せらる。丞相さきとありき
 う答と曰。いまさきつるも夏侯惇自志うら早生取と都
 送り丞相の命は任せんと。馬とまへ入と。関羽二十余合ぞ
 戦ふると。又早馬打と。二將軍をき戦ひと休よと呼り
 来りよめめめ。夏侯惇問と曰。爾いひる使を答と曰。曹
 丞相路さく。関將軍とさそぐ。そのあふ。関をひつと。あせ
 よと。告文と出し入り。夏侯惇自。丞相の関羽が途さ

関守と殺し。乃とくきりめ入ら。答と曰。このいひ。都入
 きた。夏侯惇自志ると。あまの者と取逃さ。まじと。鎗と
 ひ紗つと。菟さ。関羽も刀とまがと。又十合をくり戦ふ。不
 忽ち早馬来り。と。兩將戦ひと休よと呼り。左右へ。と
 分たり。夏侯惇問と曰。丞相関羽と生捉ま。との使
 う。答と曰。さき。道中より。関所を割符あり。入ら。住
 んと。そのあふ。無事よ。通させよと。追く。三度まで。告
 文と賜と。早馬と立あり。いまさき。入ら。夏侯惇
 自。夏侯惇あふ。人々殺せ。あて。前より使あり。と
 ぞ。生捉ま。と。兵と下知。と。四方より。取圍む。も。あ
 大音あ。げ。元。讓。雲長。志。と。戦ひ。と。休よ。と。呼り。来ら。と。

ゆり諸人ききとて入る張遼ありし戦ひと止む相待りぬ
ある張遼きたる馬上より下りて関羽を東嶺関に大守
孔秀と殺したる由都へききし「かたはどくまぶる路より害
よめ入るゆゑかたは無事を通せよ」と某と来りしゆめ入
り夏侯惇が曰秦琪の猿臂將軍蔡陽の甥ありし昔
日蔡陽と丞相まきとちりて入甥の秦琪とて手下の屬
置り関羽までよ秦琪と黄河を渡りて殺せしゆめ
黙止へき張遼が曰ゆき蔡陽ゆめ入此事をよめ入りて
さてよ丞相寛洪入りて関羽とゆめ入りて思義を
完くせしゆめ入將軍あがびしを北首ゆめ入とあまてい
ハ夏侯惇許諾し軍と収む張遼又関羽をりて御辺

いづれとせしと行ゆ入る関羽白く玄德今の表紹くも居ま
びよきあるゆめ入天トと尋ねんとわめ張遼が曰「在處に知
ぬゆめ入再び都へ回りて丞相と從がゆめ入関羽白くゆめ入二度
出り何ゆめ入又行る御辺都へ回りまゆゆめ入丞相と
たま入とて相別をゆめ入張遼の都へ上り夏侯惇の官渡
と守る関羽馬と早ゆめ入わゆめ入車と追付右の事と物詔り
しと日とゆめ入頃ゆめ入路よりゆめ入宿と借次り日より大雨
降り降はゆめ入片時ゆめ入途ゆめ入車と守護し進
と夜日ゆめ入雨晴ゆめ入湿るゆめ入乾んとて岡の上の家
に宿と借ゆめ入家主出ゆめ入と名字と問ゆめ入
関羽はゆめ入来意と熟ゆめ入家主喜ゆめ入と某の歌

常とてしるすものあり。久しくあはせし世と道なき。將軍乃威名を
今幸ひに見ゆるとして得たむとて羊と宰と酒とまてち。二人を
後堂へ請りて持成るを。関羽孫乾一處にあひまると。酒を
やのせ火は燃り馬は秣を削せらる。まてち黄昏ひたりて入年
若し大將從者五六人と引と。あひて「く来りたるは家主の郭
常もか子あらま来りたる。関將軍を見へまきとて」関羽問て曰
「まてちいなる人ぞ答て曰まてちの老父が二子よとて。関羽の二子よ
いふらぐ。今ら方より回りしるどと問ふ。獵も出とて。回り来たり
と答て父の郭常まてちの涙とまてちをみたる。其の先祖より
儒道とまてちをよめる家まてちの。天下の乱とまてちをさけと。まの郭田
耕と羊におろせと。只この二子ありと。まてちを思道とまてちを儒

業と學びて明暮たし。猶漁釣と事と。親ら諫と。まてち
まてちの家ら不幸あり。関羽「まてちの。今天下乱まてち合戦も
まてち馬と學び武藝と嗜とめし。後らまてち大功ま
まてち」。郭常と曰く武藝と嗜む好とし。まてちの子の放蕩も
しと用る。足と。関羽嘆息と。熱と。深更といふ。臥房よ
入とて。孫乾「まてちの父のかくろとて。賢人あり。まてち
まてち不肖あり。まてち天命らひと」。まてち孫乾「まてち
むし」。晷受の愚頑と。まてちの。聖人と。生り。例まてち
あまてち。寐入たる。と。あまてち。俄と。屋ら。後ら
入と。馬嘶ひと。馬の涕まてち。まてち。関羽驚ひと。走
あまてち。郭常の子。地上に倒せたる。



巻之二 三國志 第九

〇十六

巻之二 三國志 第九

裴元紹
小賊の
髪とて
関羽と
拜す

関羽

糜夫人

甘夫人

小賊

裴元紹

士卒のあつまつと。さへぐは打擲さ。まのいひあるふと問答
 へと。此人の此人の赤兎馬を盗と。打乗を逃入
 め。鞍を置んとしけるが。此馬は踏倒さ。声
 とは。あつと叫び。人の某ホ驚いと馳来り。たまた同類四
 五人物と盗人と逃入とさ。その人のあつと。孫乾さ。を
 さいと。とぐく救せと。いひを。関羽は。白のまひと。千里と
 く。いひと。入る馬の力。よれ。まると盗人と去んと。ま
 り。あつと。を救さんと。まると。巧まると。たまた家主の郭常を
 しり来り。と。不肖の子。わる悪事と仕出し。罪誠
 二。逃さ。と。と。老妻は。孫。此子と。まると。救
 り。あつと。哭。某。まると。まると。願。將軍の慈

悲と。の。一命を扶け。人。関羽は。まると。あつと。命と九
 とけ。夜。の。あつと。待と。打立。まると。郭常夫婦地。再
 拜。と。不肖の子。悪事と。まると。虎威と。冒と。幸い
 活命の恩と。め。関羽。その志と。あつと。今。まると。ま
 出。の。まると。練。戒。まると。まると。あつと。まると。ま
 め。郭常。の。夜。の。四更。の。まると。五六人の悪党と。引
 何。と。まると。出。まると。前生。の。宿業。まると。関羽。長
 策。と。家。と。出。まると。二十里。まると。来り。まると。八里。ま
 山路。の。騎馬。の。大将。二人。百余人。の。士卒。と。まると。路。ま
 入。の。山賊。の。まると。まると。まると。二人。の。身
 と。鎧。の。固。の。黄巾。の。頭。と。まると。一人。の。郭常

こ子ありはむい扱へ欲心をやまげ前もむまのやむ又いづ通は
待居たるあり。蹴ちし「そきとんと馬を打てさへいそを
真先よ立たる大将大音あげくやんらへ。まの張角が支黨
よ大方裴元紹といふものあり。爾まで無事よとありと思
はさるるよく赤兎馬をわくまぐ。異儀よあやむ目よもの
せんと待ひけり。関羽さきときひく打笑ひ欲心熾盛の山賊
どもむし張角を従ふ。かをまの関羽ときまざるの取ぬとの
とまんとし。却て首を失ふま裴元紹又やれる。まを
顔あきくし鬚再あがれ男を関羽といへりときまぐ。率よ目
よいんむ再よおむらその人ある。関羽刀をよまへ左の手よ
鬚を握りて。まをいよと呼りらる。裴元紹大よ教馬た馬よ

を飛く下郭常が子と鬚とりと引伏再持しと地上に跪
ほく関羽いあるゆへと問は答をりたる。其の天公將軍張
角は従ひて「裴元紹といふものあり。黃巾の酋黨おろびと
のちへ身ろ置處する。山林よあめり。諸方ろあがまやのど諸
と山賊と業とま今朝まのその来りて。一人の旅客赤兎馬とて
天下無双の名馬よ乗る。あがびまぐと通る。まの奪ひとる
といひへむ。かろろどく待掛たり。量ざる。関將軍あり。それ
ゆへまの者と生取と献るといひる。まの関羽りたる。まを
だ郭常が志しとあむむ。その子と殺さるまのびまぐと。馬乃
前よと繩ととあめらさせられ。頭をわく。鼠ろ窟がとく。去
る。関羽又裴元紹と問は曰御辺あるとて。名とる

たると答く曰ききより二十里を隔て臥牛山といへる山あり。山は周倉と関西より出た家々のあり。叔助虬髯容白とあはど雄壮よしと。左右乃臂す千金とあぐ。たどる張寶志たぐの。黄巾乃黨なりし。近ぶる山林は身と寓て常は將軍の威名とまたひ時とまのて拜し見へんとと。孫がたままをのたまきよりたの関羽長葉しとやたる。山林乃中なる忠義乃人ありと。賊とまき。御辺今より邪と去と正きよきと。裴元紹拜謝しとをへ関羽とて打立んとと。あははあは馬塵とあげと来とものあり。裴元紹と望と定めとされ周倉とひんとといひと。その勢おどる。馳ちるげと。よりト一人乃大将路乃つらと。拜伏と関羽きと。扶け起し

と。御辺いさあきづかつと。問ふ答く。其の関西乃周倉と。昔日張寶が手は馬と。戦場と。とまづく。將軍乃尊顔と。拜と。常く身とあまりと。盗賊よあち入。將軍とまこと。事とあ。恨と。今日幸ひと天乃賜と。不ると。拜と。孫が。將軍某と。馬前乃一小卒と。あ。たとい死をと。辞と。関羽が曰く。御辺と。相従と。勢と。周倉が曰く。率一行と。手勢と。汝ホい。関將軍と。べたうと。問ふ。同と。答ふ。関羽事乃仔細と。夫人と。甘夫人の曰く。將軍都と。出と。千里と。

志のいぞ多く乃艱難と經歷し。いづれも人乃助と受む。是
の慶化が送らんといひ。將軍さきぞ許む。今此是
るどくある。盜をさすの頼あり。人乃談論と挽ん。まじの曹
掾がききんを取し。まじの女乃身あり。將軍よほしく料
あり。関羽嘆服し。まじの周倉のむろくや。まじの先
御辺と但家よあつと入ら。二夫人まじと喜び。まじの先
山中の回り。まじの樓逢。まじの重祢と招く。待ひ人周倉
頭首し。まじの某の言は足ざる。匹夫あるが不幸。まじの身
盜賊のまじに入。は祢の非とあつ。まじの今將軍の見
へく雲とひい。まじの天日とまじの。まじの將軍まじと
外に求む。まじの主は。まじの手下。まじの勢乃相従。まじの
いづれと思ふ。まじの

いづれ。まじのまじの。まじの遺。まじの留め。まじの裴元紹。まじの置。まじの只
一人歩行し。まじの將軍の従ひ。まじの千里とと辭。まじの関羽と
志。まじの乃切あると感。まじの二夫人。まじの右と祢。まじの甘夫人の曰。まじの彼
一人まじの伴ひ。まじのいづくも。まじのあつ。まじの妨げ。まじのあつ。まじの関羽。まじの所と告。まじの
一人と伴。まじのといひ。まじの裴元紹。まじの周倉。まじの行。まじのあつ。まじの某
の相従。まじの周倉。まじの曰。まじの御辺。まじの今来。まじのまじの手勢。まじのちづく。まじの散乱。まじの
まじのまじの士卒。まじのあつ。まじのまじのあつ。まじの領。まじの関。まじの將軍
後。まじの行。まじのや。まじの馳。まじの回り。まじの御辺。まじのまじの祢。まじの裴元紹。まじのい
得。まじの兵。まじの引。まじの具。まじの快。まじのと。まじの去。まじのまじの関。まじの羽。まじの孫。まじの乾。まじの車。まじの守。まじの周
倉。まじの伴。まじの途。まじのと。まじのまじの目。まじの經。まじの汝。まじの南。まじの界。まじのい。まじの。まじの
山。まじの上。まじの古。まじのき。まじの城。まじのあ。まじのと。まじの望。まじのまじの。まじの處。まじの。まじの者。まじの。まじの

城ぞと問み答ぐ。尸のふまき古城といふ。あるが。二周已
 前。一人乃大將軍。その名を張飛と云ふ。今。四五年。幸て
 俄らまらる。城中へ攻入。大將官人。もどと。追出。城を
 り。物と。一。と。擧。と。あ。一。柵。と。結。兵。糧。と。野。へ。人。馬。と。あ。の。也。
 今。その。勢。四。五。千。の。あ。る。遠。近。の。威。と。畏。き。と。敵。を。者。
 一。ま。あ。ら。は。谷。易。ま。の。刃。と。通。る。彼。人。の。外。口。を。ま。の。あ。ま。と。結。
 り。な。ま。び。関。羽。の。あ。る。喜。ん。ど。尸。の。徐。州。没。落。乃。後。と。で。
 半。年。あ。る。り。た。へ。と。消。息。と。き。る。さ。り。量。ざ。り。兄。弟。乃。あ。の
 不。あ。る。と。疑。ひ。あ。る。張。飛。あ。る。孫。乾。を。内。へ。事。
 の。仔細。と。告。げ。せ。城。と。出。て。二。夫。人。と。む。え。よ。と。い。ひ。人。と。尸。を。
 孫。乾。馬。を。打。つ。古。城。へ。行。張。飛。の。孫。及。と。落。す。り。後。を。毛。

蕩山乃中。身と。億。一。山。賊。と。あ。一。居。たり。一。玄。徳。と。た。が。
 孫。んと。と。河。北。へ。と。あ。る。と。打。出。す。の。あ。と。通。る。飲。は。は。ら。
 是。城。中。へ。人。と。遣。つ。と。ま。は。乃。助。と。と。あ。る。城。主。さ。ら。は。
 ぬ。え。む。却。と。その。人。と。追。出。し。張。飛。い。つ。と。ま。の。一。も。
 あ。ら。む。平。攻。の。攻。入。と。あ。い。ど。廻。る。と。城。中。あ。ひ。ひ。す。ら。る。
 俄。事。あ。る。上。と。下。へ。騷。動。し。卒。と。と。ぐ。落。行。つ。張。
 飛。と。と。城。を。乗。取。縣。官。乃。印。と。奪。と。い。よ。く。兵。と。あ。の。威。
 風。と。振。り。居。た。と。忽。ち。孫。乾。来。と。や。ら。る。劉。皇。叔。と。は。
 袁。紹。と。あ。と。出。汝。南。と。行。劉。辟。と。頼。の。あ。ま。さ。ら。と。関。
 羽。の。都。と。逃。と。二。夫。人。と。車。を。乗。今。ま。の。城。外。ま。と。送。り。来。り。
 將。軍。速。と。あ。と。入。張。飛。と。あ。と。丈。八。の。蛇。矛。と。取。



關羽



張飛

張飛

兇憤

關羽之戰と需

人びたどひ死しと敵の野外に暴れもみぬ命とむさろつと
 耻辱を受へるやとてこの曹操は降りと。あつる面目ありとて
 来たる関羽が白く事の是非と辨へて。あつる右の隙
 してぞ孫乾も志やうの謙ぢ。関羽實の曹操は降りて
 まく是非を定めて入らひかき張飛いよく怒り曰く汝
 ホエたりと舌と揺さ。あつる曹操と計と約し。まきと出敵
 と生捕人をあへ。関羽が白くまき。御邊と生捕人とま
 らばあつる兵と引て来るべし。まきと入る車と推士卒の外
 兵一人もほ。張飛あつる安らふまき。馬烟とあげと大勢
 寄来りし。六丈の驚馬にあきいふ。まきと生捕の計ありと
 といふ。矛とひねり。突と蒐る関羽身と避く。後と入る。

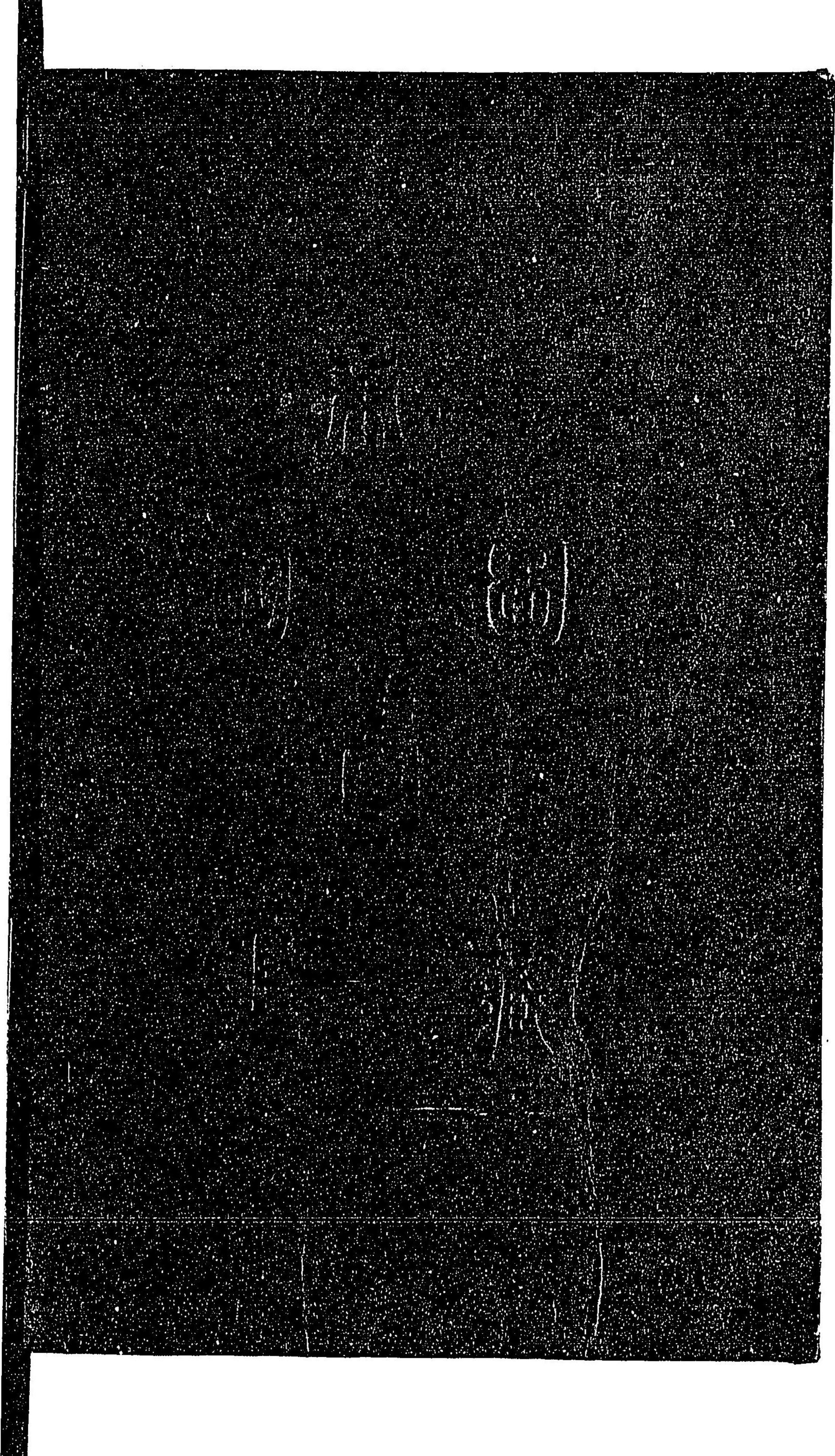
誰ともあつる旗三流さ。あげと彪の軍馬飛がとく。神
 来りし。張飛はむらと。御邊疑ひあつる。皆とま
 目今目の前と追手の大将と討つ。詭りあつる。明
 と。張飛が白く。まきと三通の鼓を打あひ。追手の
 大将と斬殺せ。遅と入ら。まきと。殺入関羽許諾
 して待居たる。追手の勢をせ。近付曹操が大将は様
 臂將軍は蔡陽刀を横へ。馬と出きて関羽問く曰く来者
 何人ぞ。答く曰く。是は蔡陽の弟。張飛と殺す。張飛と殺
 せり。まきと。相の命と受ま。来と。殺と。却と。毒
 疾と封せ。まきと。あつる。まきと。去も果て。張飛鼓を鳴り。あつる
 関羽馬と飛し。真地暗と討と蒐た。一合と蔡陽が首地。

落一通乃鼓之おちりつういよいよおび張飛あつりまさきとんとくの中
大よ喜ぶ関羽くわんぶの勢いきりに乗のりて逃にげる敵てきを追蒐おつらひ旗かた持もちて生取せいと
回くわいりと蔡陽さいやうが追蒐おつらひたる仔細さいしゆと問とひ答こたへ曰いはく関將軍くわんせんぐんの都みやこ
と出い出いひいと見み蔡陽さいやうまがりの追討おつらひせんとして望のぞむまをさごとを
曹丞相そうせいしやう許もとへかへまるるも塙たにの秦琪しんきが黄河くわんがの岸きより
討うつとまきいよく怒いかりて念ま心折あ節曹丞相そうせいしやう汝南じやなんの劉辟りゅうひく
と退治ひきせよとと兵いと授まけぬ入いり蔡陽さいやう天あま乃な與あと喜よろこび汝南じやなん
へ向むかひまる。將軍せんぐんと追蒐おつらひなりと張飛あつりひまをまとまとまと
怒いかりと志こころひま又また関羽くわんぶが士卒しよそとせまる都みやこよその始終しじうと問とひ有あ
の候まひま苦くるるま初はつまの莽まうらまとと城しやう中ちゆうへま帰かへりまる。

繪本通俗三國志二編卷之九終

三

122
74
28



22
174
28

繪本通俗三國志

二編
九